

分野(3)

ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

研究課題名：小児・思春期を対象とした健康相談・健康診査・機能訓練事業を効果的に実施するために事業従事者が有すべき知識の体系化に関する調査研究

調査研究代表者氏名：赤澤 晃

評価コメント

・アレルギー疾患の長期管理のため、患者教育を目的にコメディカルスタッフを養成することは有用なテーマである。現実的に実行可能でかつ永続性のあるシステムを構築するために、資格認定制度を設けようとする発想も貴重である。もし、この制度が日本小児難治性喘息アレルギー疾患学会のみならず、他の学会や日本医師会、厚生労働省の協力が得られるところまで進めることができれば、この研究は社会的にも非常に大きな貢献ができるであろう。

・完成度の高いeラーニングをさらに普及することを期待したい。

・eラーニングは意義深い。

・eラーニングシステムは有用であるが、実習の部分は、これに頼ることなく実施されるべきである。

・学会認定のシステムを作り上げたのは評価できるが、一般の臨床分野での認知、関連学会との協力が求められる。

・自己管理能力向上のための患者教育は、ガイドライン治療効果を高める切り札である。学会で運営する研修会やeラーニングなどで専門知識を有するエドゥケーターを養成し、日常診療現場や保健活動でこの役目を果たすシステムは優れた方策と考えられる。診療現場のみならず、ソフト3事業においてもすべての部門で活用できる。今後、日本アレルギー学会、日本小児アレルギー学会でも認定される制度に発展することが望まれる。

・認定者に経済的な見返りがなければ、長続きしないのではなかろうか。また、eラーニングが広く普及しなければ実効が上がらないと考えられるので、その点を是非考慮してもらいたい。

・灰田班との整合性をはかることも将来は必要なのではなかろうか。

・受講率・受講時間・進捗度・小テストの結果についての詳細な報告が欲しい。まだ2年目であるので今後認定へ波及する効果(受講した方の合格率等)や、困難かもしれないが実際のぜん息医療への効果や、米国との違いについての報告が期待される。また、その際の論文化も期待したい。

・専任コメディカル育成プログラムについては、関連諸学会(小児科学会、アレルギー学会など)との連携を図ることを考慮して頂きたい。